



柿崎直治

美術館建設構想はど うなっているか

質問

長年にわたって議論されているのが美術館建設問題であるが、町長は就任当初の私の一般質問の答弁の中で「多数の町民から要望されていることでもあり、前向きに検討してゆく」と答えている。しかし、その後明確な方針が示されないまま6年が経過している。町民の血税から美術館建設基金として1億円もの多額の積み立てをしていながら、それが有効に使われないから基金廃止も考えざるを得ない。例年全国の多くの方から応募がある童画展も湯沢の独自性のある定着したイベントであり、多くのすばらしい作品を貯蔵している。また、賛否両論の中で

購入した川端康成雪国展の日本画も今となっては湯沢の貴重な財産である。これらを一堂に集めて展示して湯沢の魅力ある観光資源として活かすためには美術館建設が不可欠と考える。そこで以下の質問について町長の考えを伺う。

①美術館建設の予定をもっているのか、その時期は何時頃と考えているのか。

町長答弁

美術館建設に関しては現在童画の街づくり委員会からいろいろな検討結果をいただいているところでありますが、3月の定例会でも私の任期中にはその方向でお示しをするということをお話ししました。立地的条件や管理運営など財政的状況を総合的に勘案し検討を重ねてきましたが、その結

果雪国館を内部改修しそこを拠点とすることが最良の方法であると考え、今後共同検討委員会と意見交換を行いつつありと考えています。ゆきたれにも思っています。いづれにしても私の任期中には童画美術館の建設は行いつつありと考えています。

穴沢河川公園内の公共 トイレの設置について

質問

穴沢河川公園には毎年多くの人が訪れ、今では冬シーズンを除いて湯沢の最も人気のある観光スポットとなっております。しかし、その割には公共トイレは橋のたもとに簡易トイレが2基設置されているだけ、それも男女の区別もなく防犯上からも問題があり、観光立町を宣言する町の取り組

み方には大きな疑問を感じる。トイレは老若男女を問わず人間の生理的な要求である。大きな観光施策も必要だがこうした小さなことへの気配りをする、それが心からのおもてなしではないかと考える。町長の考えを伺います。

町長答弁

ご指摘の通り現在設置している2基のトイレでは少なく、また防犯上からも男女共用は好ましくないと考えますので、来年度からは男女別に分けて増設したいと思っております。

予防医学の観点から 脳疾患に対して町は どのような対策をとっ ているか

質問

当町も高齢化が進み今後ますます脳疾患患者が増えることが予想されます。予防医学の見地からこれら高齢者の脳疾患に関して町はどのように取り組んでいるのか、伺います。

町長答弁

町では脳疾患対策として平成10年度から15年度まで脳ドック検診の助成を行ってまいりましたが、平成16年度からはこの脳ドック検診助成制度に変えて負担が少なく気軽に受診でき予防につながるものとして動脈硬化検査を導入しております。また、基本健診結果等での該当者には個別に案内を出し受診勧奨を行っております。町ではこれら検診事業のほか今後も積極的に健康づくり事業を展開し、脳疾患を含め病気になるににくい心身の健康増進を図る所存であります。

美術館建設構想について



一

般

質

問